

特集：第23回東京モーターショー

ビューティフル・モーターサイクルワールド・ヤマハ

Beautiful Motorcycle World YAMAHA

YAMAHA 250cc新時代





ご覧になりましたか!? 10月28日、日曜日の日本経済新聞の1面トップを飾ったビッグニュース「燃費、一挙10%改善」「ヤマハ新型エンジン開発」——これはヤマハがかねてから研究開発を続けていたヤマハ吸気制御方式の新型エンジン「YICS」を、初めて公表したものです。この新方式は、10%も燃費を向上させ、しかも85年アメリカの燃費規制、排ガス規制の双方をクリアするという画期的な新技術です。「省エネ」法にもとづく燃費低減に取組む自動車業界に、一大センセーションを投げかけたこの「YICS」は、'81年以降の国内モデルへの採用も検討されています。'80年代を大きくリードするヤマハ新技術にどうぞご期待ください。

〈特集〉第23回東京モーターショー
YAMAHA 250cc新時代
 注目のヤマハクォーターバイク参考出品車ご紹介

10 クォーターバイク・シリーズに
 '80年ヤマハの意気を見た!
 『YAMAHA 250cc新時代』に集まる販売店さま、海外ディーラーのみなさま
 そしてお客さまの大反響

新しいエネルギー時代に対応するヤマハ
 話題の新技術アルコールバイク、ケロシン（灯油）用船外機

15 ビューティフル・モーターサイクルワールド・ヤマハ
 東京モーターショー・ヤマハコーナー全容ご紹介
 すばらしいスピードのドラマ

22 話のパドック
 第6回TBCビッグロードレース

27 「ライダー体操」を広めよう
 〈安全運転推進本部コーナー・店頭指導のワンポイントアドバイス〉

30 「第6回TBCビッグロードレース」詳報
 ヤマハトピックス
 陸のヤマハ・海のヤマハ・世界のヤマハ

34 「YPVS」のはなし
 〈高品質・高性能——ヤマハ技術⑫〉
 世界を制した先進の技術

ヤマハ用品・部品コーナー
 ウィンター・ウェアご案内

〈高品質・高性能——ヤマハ技術⑫〉
 世界を制した先進の技術

〈高品質・高性能——ヤマハ技術⑫〉
 世界を制した先進の技術

〈高品質・高性能——ヤマハ技術⑫〉
 世界を制した先進の技術

〈高品質・高性能——ヤマハ技術⑫〉
 世界を制した先進の技術

3

14

20

24

28

32

35

●訂正とお詫び

前号カラーページでご紹介いたしましたニューチャビィLB50II/80IIシリーズのうち、80ccのハンドクラッチ型LB80II-Hのカラーリングが誤っています。カラー、キャンディブルーとコンペティションイエローとあるのはキャンディブルー1色の誤りです。お詫びして訂正いたします。



YAMAHA 250cc 新時代



2年ぶりの開催で話題を集めた第23回東京モーターショーは、11月2日から12日までおなじみの東京・晴海の国際貿易センターで開かれ、延べ100万3千100人にのぼる視客を動員して、11日間におたる会期の幕を閉じました。

前回にも増して大きな人気を呼んだ2輪車館にあって、ヤマハは「ビューティフル・モーターサイクルワールド・ヤマハ」をメインテーマに、暮しの道具として人びとの生活に完全に定着したバイクをさらに前進させ、バイクを持つことによって広がる大きな世界、すばらしいモーターサイクルの世界をつよくアピールして好評を集めました。

そして、このテーマの中心となり、ヤマハコーナーの主役を果たしたのが《250cc・クォーターバイク》シリーズ。

最近の根づよい人気に支えられ、'80年代のスポーツバイクの主流と目される《250cc》にスポットを当てて、2サイクル、4サイクル、オンロード、オフロード全7機種におまぶ参考出品車をご紹介したのですが、時代を先取りしたこの明快なテーマと、個性あふれる参考出品車のかずかずが、つめかけたお客さま、そして販売店みなさまの話題をさらったものです。

特集 第23回東京モーターショー

『ヤマハ250cc新時代』——今回のショーで高らかに告げられた80年ヤマハの〈クォーターバイク〉宣言は、早くも各方面に一大センセーションを巻き起こしています。個性あふれる参考出品車のかずかず、そしてこれら新しいバイクが創り出す〈ビュートイフル・モーターサイクルワールド〉に、圧倒的な期待が寄せられているものですが、ここに2輪車館の話題を独占した新しいクォーターバイク7機種と、250ccをとりまく状況背景をご紹介しましょう。

『これぞヤマハだ！』の声を一身に集めた 話題の超スーパー・クォーター「RZ250」



↑ニューパターンの3.00-18フロントタイヤはチューブレスで、キャストホイールも軽量な新型。170φのヘッドランプは、60W/55Wのハロゲンランプ

←2輪車館のハイライトとなったRZ250
●全長2080mm ●全巾750mm ●全高1090mm ●シート高785mm ●乾燥重量134kg ●タンク容量16.5ℓ



↑ヨーロッパスタイルの前傾ポジションのコンチネンタルハンドル。右側のタコメーターに水温計がセットされている。メインスイッチはハンドルロック連動

←RZ250のリヤビュー。フレームの内側を通り、テールアップしたマフラーも見るからに精神なレーサータイプ。リヤタイヤは3.50-18。

連日熱気みなぎるヤマハコーナーの中で、すべてのお客さまの足をひきとめ、熱い視線を一身に集めていたのが、話題の超スーパースポーツ「RZ250」。

9月下旬のパリショーでベールを脱ぎ世界中に大反響を呼んでいた、あの2サイクル、水冷ツイン、モノクロス・サスペンション装備の「超」スーパー・クォーターバイクの登場です。

メインステージのダンテーブルに置かれたホワイト、そして中央通路に面して展示された目のさめるような真紅、2台の「RZ250」は、まさに「ヤマハ250cc新時代」のシンボル・モデルと

して観客を完全に魅了し、思わず息をのむように立ち止まったお客さまからは「まるでサーキットから抜け出して来たようだ」「見るからに「走り」を感じさせるすばらしいスタイリング。これぞヤマハだ！」といった声が数多く聞かれたものです。

33馬力のハイパワー 134kgの身軽さ！

事実、見るからに走りに徹したこの「RZ250」は世界最強の市販レーサー「TZ250」のストリートバージョンともいえるもの。レーサーなみの徹底した軽量化によって、重量はわずか134kgに押えられ、54mmスクエアアライプの2サイクル、水冷ツインエンジンは33馬力/8500回転というハイパワーを秘めています。

これに配したミッションは、クロスレシオの6速。コンチネンタルハンドルと従来よりもずっと後方にセットされたバックステップによるヨーロッパスタイルの前傾ライディングポジションで走る「R

YAMAHA

250

CC新時代



スリムな「XS250スペシャル」

さて、ひととき強烈な印象を与えた「RZ250」に勝るとも劣らぬ人気を集めたのは、レッドとブラック

クの2台がRZとペアで展示された「XS250スペシャル」。
RZのヨーロッパタイプのスタイルと「XS250スペシャル」のアメリカン

ホースバックライディングのスタイルがまさに好対象をなして、全く異なるそれぞれの個性を見る人に、鮮明に印象づけていたものです。

『おおっ！250スぺシャルだ！』 ホースバックスタイルに人気集中の

「XS250スぺシャル」

昭和54年度の250cc・軽2輪需要の著しい伸長は、53年の170%以上にも達する、と予測されています。中型免許の主流400ccに台数でも肉迫し、55年度は逆転も予想される250cc。
また、250ccユーザーの中でも、バイクを大人のレジャーとして楽しむアダルトユーザーの増加も特筆される傾向。80年ヤマハの「ビユーティフル・モーターサイクルワールド・ヤマハ」の提唱、「ヤマハ250cc新時代」の幕開けは、まさにこうした市場動向を先取りして展開されるものなのです。



Z250の迫力は容易に想像できるものでしょう。
足まわりも、ニューデザインの風車型キャストホイールにニューパタンのチユーブレスタイヤ。市販オンロードモデルでは初のモノクロス・サスペンションを装備、コーナーリング時のバンク角は46度にも達しています。
このように、現在の250ccを、すべての面で超える「RZ250」。それは単に「TZ」のレプリカにとどまることなく、250ccロードスポーツの機能を徹底的に追求して生まれた、文字通りの「超」スーパー・クォーター。着実に増えつつけるマニアックなお客さま、アダルトユーザーにも、持つ喜び、走る喜びを与える期待の超スーパースポーツとして、最高の人気を集めたものです。



「XS650スペシャル」ゆずりのホースバック・スタイルに人気集中。「XS250スペシャル」●全長2070mm ●全巾870mm ●全高1140mm ●シート高770mm ●乾燥重量166kg ●燃料タンク容量14ℓ ●タイヤサイズ(前)3.00S18(後)120/90-16-63S、いずれもチューブレス

いうまでもなく、この「XS250スペシャル」は、「XS750/650スペシャル」で好評の、ホースバック・ライディングスタイルを250ccに再現したものだ。「RZ250」や「XS250」のコンチネンタル・スタイルが、高速、ロングツアーを主眼としたポジションであるのに対し、こちらは、ゆったりとクルージングを楽しむのに最適のスタイル

。ドイツのアウトバーンやイタリアの太陽道路などスピード制限のないハイウェイを疾走するヨーロッパタイプと55マイル(95km/h)制限のフリーウェイを堂々と走るアメリカン・スタイルの好対象。そしてこの「XS250スペシャル」は、フルバックハンドル、キング&クイーンシート、ティアドロップ型燃料タンク



「XS250スペシャル」のコンチネンタル・タイプ「XS250」。ロングツアーにタウンユースに、その幅広い人気を集めた

の乗りやすさも格別。「スポーツバイクとしてばかりでなく、実用性の高いコミュニケーションバイクとしても魅力は十分」と訪れた販売店の方からは、幅広い商品性に高い評価が寄せられていました。

4サイクル・ツインのもうひとつの参出品車として確実な評価を集めたのが「XS250」。180度クランクのOHCTWIN、フルトランジスタ点火、6速ミッションな

ロングツアーに、タウンユースに 幅広い人気「XS250」

モデル。コンチネンタルハンドルとバックステップ、17ℓ入りの燃料タンクさらに小物入れ付のステップドシートなど、まさにロングツアーとしての機能を完備させたものですが、「GX250」ベースのエンジンは、従来にも増して中低速性能の向上もはかられ、気軽なタウンユースでの乗りやすさも格別。

ク、ショートカットのメガホンマフラー、15吋と小径で極太のリヤタイヤなど、まさに「XS650スペシャル」の魅力そのままた250ccに再現したモデルなのです。

エンジンは、180度クランクのOHCTWIN、フルトランジスタ点火でミッションは6速。その独特のホースバックライディング・スタイルとともにヤマハクォーター・バイクシリーズの個性を広げ、お客さまの「ビュートイフル・モーターサイクルワールド」を広げる期待のモデルとして、お客さまの憧れと期待感が寄せられていたものです。

需要動向とともに「クォーターバイク」ブーム到来の兆しは各所に表われています。そしてこの裏付けとして一様に話題を集めているのが、現在の国内のバイク規制上で250ccが特に多くのメリットを持っていることです。251cc以上と比べての差は法定速度が10km/h低いこと。しかしこれも60km/h道路の減少で名目だけになりつつあり、逆に2人乗りや高速道路走行も可能。都市部では深夜走行規制の対象外、さらに車検がなく保険、税金など維持費の面でも有利……といった決定的な多くのメリットです。

『待望の4サイクルシングル』の声しきり ビッグシングルの再現『SR250』



↑ホースバック・ライディングスタイルの4サイクル・シングル『SR250』

●全長2015mm ●全巾830mm ●全高1125mm ●シート高735mm ●乾燥重量123kg

←新設計の鋼管ダイヤモンド型フレームに搭載されたOHC単気筒エンジンは、21PS/8000r.p.m.、2.0kg-m/6500r.p.m.、ウェットサンプ潤滑で始動はセルのみ。

「ついにビッグシングルSR400SP/500SPの250cc版が……」とマニアックなお客さまやアダルトユーザーの目を輝やかせたのが「SR250」。しかも、単気筒ならではのスリムなボディは、「XS250スペシャル」同様のホースバックライディング・スタイルにまとめ上げられてのものだけに、お客さまの話題もまた一段と高まったことはいうまでもありません。

**123kgのスリムなボディ
始動はセルのみ!**

この「SR250」は、ヤマハならではのユニークなビッグ・シングルロード



スポーツ「SR400SP/500SP」の機能と性能を、さらに「250cc」に合わせて追求した意欲的なニューモデル。735mmとらしく両足が接地する低いシート高、123kgと4サイクル125スポーツなみの軽い重量そしてスリムなボディ……など乗りやすさを徹底的に追求したもの。

OHC単気筒エンジンは、8000回転で21馬力の最高出力を持つのですが特に中低速パワーの確保にも留意して、

新時代

4サイクル・シングルの味を活かし、タ
ウンユースでの乗りやすさも高めていま
す。また、今回のシヨードも「ヤツノキ
ツクがない」と注目を集めた始動方式は

セル始動専用。このためにバッテリーも
12V 12Aと大容量のものを採用し、また
クラッチを握らないとセルが回転しない
といった安全対策も施されています。

潤滑はウェットサンブ、点火はフルト
ランジスタ、キャブレターは高性能VS
型……くい入るように細部を眺めまわす
お客さまは、つぎつぎと「SR250」

の特徴を発見され、「SR400SP/
500SP」のスケールダウンではない、
強烈な個性に、新発売を待つ声がいしきり
に交わされていたものです。

「クオーターバイク」の人気の因は、単に法規上のメリットだけではありません。軽量・コンパクトで取り扱いやすく、車格的にもビッグスポ
ーツの走行感を十二分に満喫することができる——といった魅力も大いに注目されているところ。まさに「250こそモーターサイクル
スポーツの原点」アダルトユーザーの急増は、こうした250本来の魅力の浸透ぶりを示し、若者だけのビッグスポーツから誰もが楽しめ
るスポーツバイクへの転換を示しているといえるでしょう。

4サイクル・シングルにモノサス！ オフロード派の話題「XT250」

オンロード、オフロード、4サイクル、
2サイクルそしてツイン、シングルまさ
に磐石のラインアップを展示して注目を
集めた「ヤマハ・クオーター」シリーズ。

4サイクル・単気筒ではロードスポー
ツの「SR250」に、エンデューロータ
イプの「XT250」が登場して、オフ
ロード派のお客さまの関心を集中させた
ものです。

「SR250」同様の鋼管ダイヤモンド
型フレームに、ブラック仕上げのOHC
単気筒エンジンを搭載したこの「XT2
50」は、すでに「DT250」で定評

のモノクロス・サスペンションを装備、
またフロント・フォークもリデイング
アクスル型のロングストロークのものを
採用して、オフロードの走破性を高める
とともに、オンロードの走行性も十二分
に考慮したものの。その操縦性と取りまわ
しやすさは、単にエンデューロマシンに
とどまることなく、デュアルパーパスマ
シンとして高度にまとめ上げられたもの
です。

それだけに、軽量化と乗りやすさに特
にポイントが置かれ、乾燥重量はなんと
113kgとコンペティションマシンなみ。
そしてシート高も840mmと低くセット
されているのが特徴です。

またエンジンは、定評のCDI点火。
始動時のデ・コンプはキック連動型とし
てレバー操作を不要にするなど、さまざ
まな新技術が採入れられています。

オフロードの楽しさが静かなブームを
呼び続ける中で、その代表格ともいえる
2サイクル「DT250」とともに登場
した「XT250」、それはオフロードの
世界にも「ビュティフル・モーターサ
イクルライフ」を広げる待望のニューモ
デルとして、各方面の人びとからびとき
わ高い注目が寄せられていました。

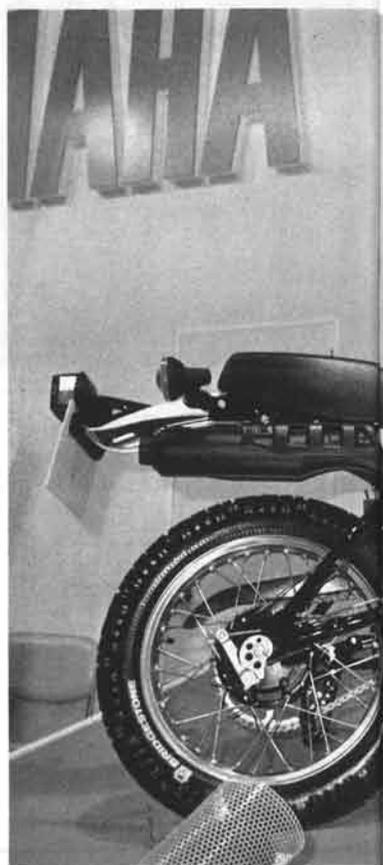




すでに国内でも知る人ぞ知る
オフロード・レーサー「TT
250」。2サイクル単気筒は、
38馬力とニューYZの40馬力
にせまるもの



こちらはオフロードのプレイ
バイク「TT250」、「XT250」
のコンペティション・モデル
として人気を集めた



- ↑オフロードに、オンロードにオールラ
ウンドな走りに期待が集まる「XT250」
●全長2135mm ●全巾890mm ●全高1170
mm ●シート高840mm ●乾燥重量113kg
- モノ・サスでオフロードの走破性を高
めた「XT250」、リヤ・タイヤも4.60-
17のブロックパターン(フロントは3.00
-21)
- ↓OHC単気筒エンジンは、21PS/8500
r.p.m.、2.0kg-m/6500r.p.m.。デ・コンプ
はレバー操作のいらぬキック連動式、
燃料タンク容量は8ℓ



『日本でもこんな世界が広がれば……』 2サイクル・エンジンデュローレーサー 「TT250」

さて、オフロードタイプでさらに注目
されたのは2サイクル、4サイクル各1
機種が登場した「専用マシン」。

まず38馬力/7500回転というハイ
パワー2サイクルエンジンをクロモリ鋼
管のセミダブルクレードルに搭載、モノ
クロスサスペンションを装備した「TT
250」は、ISDT(国際6日間トラ

イアル)やアメリカのデザートレース、
オフロード耐久レース用の本格的コンペ
ティションマシン。

YZタイプの12ℓ入り燃料タンク、サ
イドのゼッケンプレートなどが、その高
度な走破性を物語り、競技専用車とい
え、熱心なマニアからは熱い視線を浴び
ていたのが印象的です。

オフロードプレイバイク 「TT250」

そして、4サイクル単気筒の「TT2
50」。こちらもデザートレースやTT
レースなどオフロード競技用に開発され
た専用マシン。

とはいえ、こちらはオフロードのプレ
イバイクとしての性格が強いのが特徴。
アメリカでは競技に限らず、燃料フルタ
ンクでオフロードを走りまわり、ガス欠
になるまで楽しむといった遊びが人気を

集めています。まさにそんなオフロー
ドのダイゴ味を満喫させてくれる「TT
250」。

基本構成は「XT250」に準じるも
のですが、23馬力/8000回転とパワ
ーも高いもの。フロントのゼッケンプレ
ートが水筒、というところにこの「TT
250」のプレイバイクとしての個性が
象徴されているようです。

YAMAHA
250cc
新時代



クォーターバイク シリーズに

'80年ヤマハの 意気を見た!!

「ヤマハ250cc新時代」——個性広がるヤマハ・クォーターバイクの一大ラインアップでもり上がった79東京モーターショー。それだけにまた、今回のショーを見学した販売店の皆さまやお客さま、さらには外国からお見えのディーラーの方々まで話題は、皆一様にヤマハの250ccバイク群に終始していました。

「80年代の需要動向を先取りした大胆な政策」、「250ccの特性を生かした個性あふれたバイクの開発」……等々と、その印象もさまでしたが、ここではそんなヤマハコナーでひろった皆さまの声をもとに80年ヤマハに対するさまざまな反響をさぐってみました。

スポーツのヤマハが 250ccバイクにも再現!

●東京都江戸川区・大月ヤマハスポーツショップ——大月信和社長

何か関心もてたかといえば「RZ250」と「XT250」ですネ。「RZ250」はもう即、スポーツのヤマハそのものだし、「XT250」は今まで出なかったのが不思議なくらい確実に売れる商品。来季のうちの市場では、とくにこの2車種を中心に250ccバイクの攻勢を展開する予定です。

この250ccバイクのメリットについてはもう先刻ご承知なので言うまでもありません

が、それにしてもヤマハがあえてこの時期に250ccバイクで勝負をかけたという意気込みは立派。ユーザーのニーズに応えたバイクの出現は、きっと大きな話題を提供することでしょうネ。

今年のうちの傾向を見てもそうですが、250ccバイクユーザーの伸張率はぐんとハネ上っているわけですから、80年代は1台当りの利益率のいいバイクをより多く販売して、

250ccの伸び率がスゴイ。 それだけに来年こそは期待できる!

●東京都北区・エールモーターズ——三井 潤社長

今回のショーでとにかく目についたのは「RZ250」と「XT250」、それに「SR250」ですネ。なかでも水冷・2サイクルのRZは、うちの市場にピッタリです。



というのも、うちの店のお客さまは70%が16歳から18歳までの高校生。すでに雑誌でも読んでいたのか、反響はことのほか大きかったんですネ。なにしろ、250ccというのはエア・ポケットというか、今まで陽が当たらない存在でしたでしょう。それだけに、ここに来てヤマハが他社に先きかけてパツとスポットライトを浴びせたということは、「スバラシイ」の一語につきますよ。

どんなバイクにしても、最初に「スバラシイ」イメージをアピールしたものが売れるのはどの商売でも常識。XS650スペシャルも然りなように、「RZ250」をはじめとするヤマハの250ccバイク・シリーズも、そうした意味でひとつのブームになる位まで売っていきたいと思いますネ。

ちよつどいい機会なので 250ccで商売の幅を広げる!

●東京都足立区・関谷モーターズ——関谷信男社長

ヤマハの250ccバイク市場への全力投入には、まずビックリさせられましたネ。他社が中型といえば相変らず400ccに的を絞っている中で、ヤマハだけが250ccを積極的に開発してきた。しかも、魅力あふれる商品群をズラリと勢揃いさせて。

もう、ここまで明確な主張が打ち出されたわけですから、私たち販売店だってそれに応えていかなければいけないでしょうネ。そこで実際の商売についてなんですが、うちの場合はどちらかというとファミリーバイク市場を相手にしていたので、これを機にもう少し商売の幅を広げていこうと思っっているんです。

具体的には、商品陳列の一新とか、高校生や大学生へのアプローチの積極化を図るなど



してみようと。そして、これらの販促策で80年代の商売の足がかりを作りたいと思っています。



いきたいと思います。

250ccバイクのブームに於いて、ファッションと同じで誰かが着ればはやるもの。ファミリーバイクにしてもそうだったけど、メーカーが宣伝し販売店が売れば近い将来には自然と250ccバイクのブームがてきちやうではないでしょうか。

売れそう、というより
売らなくちゃならない!

●東京都文京区・佐藤ワレシットサービス

佐藤博美社長

どんなクラスのバイクでも、その商品自体に持ち味があれば必ずや売れるでしょう。その点、今回の250ccバイクのラインアップはどれも個性的なバイクばかり。とくにRZ



やSRは400ccバイクにない持ち味をそなえているので人気が出ると思われれます。それに、車種が豊富なため選択する楽しみができたということ。これは、先程の400ccバイクとの選択をも含めて、何よりのお客さまへのプレゼントに他なりません。さらに、

このことはスポーツバイクのお客さまの層も広がる可能性を秘めている。若い人はもちろんですが、20代後半から30代の人たちも重要な見込み客になるに違いないでしょう。

免許制度、車検、保険等の諸経費、都内の夜間通行制限(250cc以下は免除)……など、250ccバイクのメリットは事実たくさんあるわけで、これらのラインアップは確実に売れていくことでしょうが、それよりも販売店としても2〜3年先の販売を考えた場合、いまこのチャンスに絶対に売っていかなくてはならないクラスだと思えます。

商品さえそろえば

今日にでも展示会を開く!

●千葉県船橋市・ヤジマススポーツショップ

矢島 明社長

クオーターバイク・シリーズはいいですね。なんといってもヤマハのコーナーは力がみなぎっているという感じ。'80年代の意気込みがヒシヒシと伝わってきました。

実際の商品にしても見た感じだけで「売れる商品」とわかる。とくに「RZ250」や「XT250」、「SR250」などは、ヤングのお客さまだけでなく年配の、いわゆるア



ダルトユーザーといわれるお客さまにも満足いただけるのではないかと思います。

いままでは、どちらかというと250ccバイクは400ccバイクのオマケという感じでしたが、今回の商品はいずれも個性を持ち合わせているでしょう。ですから、いままで発掘できなかったお客さまをも獲得できるのではないかと。一度、試しに乗ってみようかなと、スポーツ心をさそふこともできるのではないかと期待しているんです。



●東京都足立区・山田オート販売

山田 勤社長

250ccに総力をかけようと思っていた矢先きだった

ヤマハが250ccバイクに焦点を合わせたということ、これはもうすぐわかるんですよ。まず車検がないこと、これは4輪に乗りかえたとしても手離さないでしよう。また、保険等の諸経費の安さにしても、車輛価格はクレジットでどうにかなるもの、これはやはりメリットのひとつ

つ。省エネの背景や法規制の面からも、250ccバイクが'80年代のバイクであることは間違いないから。うちでも、来年からは250ccバイクの拡販に力を入れようと思っていた矢先きだったので、まさにグッドタイミング。とくに「RZ250」や「XT250」なんかの商品が出てくれば、もう恐いものなしの商売が展開できますよ。それに、中古車市場にとっても、大きなメリットになるしね。

それはともかく、250ccバイクは自分の生活を中心とした考え方のお客さまにも売やすい商品なので、来年はこれらの商品を前面に押し出して新しいスポーツバイク需要を切り拓いていきたいと思います。

YAMAHA
250cc
新時代



**アメリカでも省エネで
小型バイクが売れてますよ！**

●アメリカ オクラホマ州／ヤマハ・ディーラー ケン・リー氏

ヤマハとのつき合いは10年前からですが、ここにかけてのヤマハ車の人気はすごいですね。とくにXS750スペシャルとXS650スペシャルは群を抜いているという感じ。誇りをもって今の仕事をやっています。それだけにまた、どうしてもショーでの関心はビッグバイクに向いちゃうんですが、今回は少なからずや小型車にも興味を惹かれる

**来年、我々が扱うモデルの中には
250ccバイクを絶対いれたい！**

●カナダ／ボルガース・サイクル ミッシェル・ボルガー社長

バイクの本場の日本でショーを見れる機会がもって最高にウレシイです。事実、今まで見たどのショーよりもずっと大規模で、ディスプレイもたいへん素晴らしいけど、それにも増してよかったのがヤマハ・バイクの豊富なラインアップです。

もちろん、うちの市場での目玉といえば「XSイレブン・ミッドナイトスペシャル」です



できたらRNZとXSの
2台がほしいのだけど……

が、最近では経済性や手軽さの点から250ccバイクの人気も高まっている。それだけに'80年代には、この種のバイクの販売に相当力を入れていく予定です。カナダで伸びているバイク・ユーザーといえば、30歳以上の家庭を持っている人が多く、その使用形態といえば通勤用。その点では日本と状況が同様ですが、とにかくモーターサイクル・ビジネスは伸びているので400ccから250ccなどの小さなバイクもどんどん売ってヤマハのシエア・アップをめざしたいと思っています。

**250cc独自の開発が
なんと良かったって嬉しい！**

●東京都調布市 関 正行さん(24)／加藤 純さん(18)／今関雅敬さん(23)

関くんや今関くんとはオートバイ仲間なんですけど、3人の一致した意見は「IT250」への評価でした。もちろん「RZ250」や「XT250」も最高でしたが、とくにこのITは設計した人たちが楽しみながら作ったんじゃないかと思わせてくれたからです。それはともかくとして、250ccといえば



など有意義な訪日でした。といいますが、やはりアメリカでも省エネルギーの問題が今一番の関心事だから。400ccや250ccのストリート・バイクもかなりの需要の伸びを示していますし、また、通勤(学)者のバイク利用が極端に増加しているからです。そういう点では、今回のショーで最も興味を惹かれたのが「XS250スペシャル」。ホースバックライディング・スタイルのこのクルマは、650cc同様に人気が高くなることでしょう。



●東京都足立区

僕は20歳で、高久は23歳で中型免許をとったんだけど、バイクに乗るなら車検や保険料、夜間通行制限等の関係で250ccにと決めていたんです。事実、いままではトレール車に乗っていたわけで、結構林道ツーリングなんかを楽しんでいた。でも、もうひとつピリツとしたものがなかったんです。

というのも、250ccクラスは400ccのお下がりで、何というわけでもないけどヒケ目を感じていたというか。とくにオンロード車はその傾向があったので、買うまでは至らなかったんです。

でも、今回のショーを見てビックリ。RZはもうこれしかないという感じだし、XSやSRにしてもホースバックライディングが決まっている。たとえ250ccバイクといえども魅力がいっぱいなので、買う気は充分だったところ。高久なんかはもうXS250スペシャルを買うつもりでいるらしいけど、僕



写真左が千葉さん、右が高久さん

千葉新一さん(24) / 高久 豊さん(24)

はまだRZにこだわっているんです。本当は2台買える余裕があればRZとXSを買っちゃうんだけど、実際に発売されてしばらくの様子をみてからどちらを買うか決めようと考えています。

走りを楽しめるバイクがもう一台あらわれた!

●東京都稲城市



いやあ、楽しくなってきましたね。パリ・ショーで350ccが出ていたので、きっと東京モーターショーでも見られるだろうなと思って来たのですが、それが250ccに姿をかえて現われたなんて。

私は現在、BMWの800ccに乗っているんですが、250ccなら車検もいらないので問題なし。とにかく、早い機会に実際に乗って、その走りを試してみたいですね。

250ccといえば、これまでのバイクはムード的なものはあっても、実際迫力のあるバイクは少なかったでしょう。でも、このRZ

その点、今回のショーで見たヤマハのクォーターバイク・シリーズはお見事。決して400ccのおさがりでなく、250cc独自の開発のもとに作られたバイクばかりなので久々に興奮させられました。これからは、軽くて速い——250ccバイクのブームになるんじゃないかな。

和田 隆さん(30)

は他のバイクに比べても決して見劣りがしない迫力をそなえている。人気が出ること、間違いないですよ。

『RZ250』や『XS250スペシャル』はカナダでもブームを呼びそう!

●カナダトロント / モーターバイク ジョン・モルデンハウワー社長



こんなにぎやかなショーは初めてです。なにしろカナダのショーは歩くことができるけど、こちらは人が多くて歩けないんですから(笑)。でも素晴らしいディスプレイだし、魅

力あふれる商品群が並んでいるので本当に楽しいです。

その中でも、とくに私の関心を持ったのが『ミッドナイトスペシャル』(XS1100LG)と250ccのラインアップ。それぞれ個性がみちあふれた商品ばかりで、早くも来年の商戦が楽しみです。

昨年はXS650スペシャルとXS750スペシャル、さらにXSイレブンが大人気でしたが、今年後半からの新しい傾向が400cc前後の中型バイクの人気。この分ていくと近い将来には、燃料危機の問題等からヤマハがいうように250ccが最もポピュラーになるのではないかと思わざるをえません。

そんな意味でも、『RZ250』や『XS250スペシャル』などのストリート・バイクは、グッド・タイミングな商品。きつと多くのファンをつくることになると思われま



写真左から関さん、加藤さん、今関さん



新しい エネルギー時代に 対応するヤマハ



左が100%アルコール用バイク、右がケロシン用船外機、そして右上がガソリン用「RX80」



日本の エンジン技術の歩み一堂に

「80年代の豊かさへ——せいかいを結ぶる私たち」をテーマに開催された第23回東京モーターショー。毎回ユニークな企画で人気のテーマ館には、今回1945年から現在までの代表的なエンジンが一堂に集められ、「日本の自動車エンジンの歩み」と題した、一大展示がくりひろげられました。

この中でヤマハは、2サイクル・ロータリーバルブのA7型(昭和39年・125YA6)から、5ポート・ピストンバルブのR5型(昭和45年RX350)、そして強制空冷2サイクルの2E9型(昭和52年パッソル)、DOHC3気筒のJ7(昭和51年GX750)、さらにDOHC4気筒の3H6型(XSイレブン)まで、それぞれの時代をリードしてきた代表的なエンジンを展示。2サイクルのヤマハから、2サイクル、4サイクルとより幅を広げた高品質、高性能ヤマハへの歩みを示して大きな人気を得たものです。

「省エネ時代」のまっただ中で開催された第23回東京モーターショー。それだけに、つめかけたお客さまの展覧車に注ぐ視線にも例年になくシビアなものがあったといえるでしょう。

そうした中で、お客さまのもうひとつの注目のマトとなっていたのが、省エネ時代に対応する積極的なヤマハの技術開発の姿勢です。いまや全世界的命題となっている「省エネ」に対して、すでにヤマハでは積極的な研究開発を続けていますが、そうした姿の一端として今回のショーにも100%アルコール用バイク「RX80」(試作モデル)、ガソリン用バイク「RX80」そしてケロシン(灯油用)船外機「エンデュロ15AK」をご紹介したものです。

100%アルコール用バイク

100%アルコールを燃料とするこの試作モデルは、世界に先がけてアルコールの燃料化を推進しているブラジル社会の要請に応えて開発したものです。

沸点が高く、気化潜熱が大きいために冷機時の始動に問題があること、一部のゴムや樹脂、アルミなどを腐食してしまうこと——といったアルコール燃料の問題をヤマハ独自の

技術によって解決しています。

ガソリン用バイク「RX80」

ブラジルではまた、ガソリンと呼ばれるアルコール20%入りガソリンが自動車用燃料として販売されていますが、この「RX80」はこうしたガソリン用バイクとして開発され、すでにブラジル国内で生産販売されています。

へ現在国内で生産販売されているバイクはアルコール対策を施していません。ガソリンにアルコールを混入すると、トラブルの原因となります。

ケロシン(灯油)用船外機「エンデュロ15AK」

こちらは海のヤマハが開発したケロシン用船外機。ガソリンにくらべて灯油が入りやすくしかも安価なアフリカや東南アジアの国々ですべてに利用されているもの。

船外機を持つ効用性を少しも損うことなく安価な灯油で経済的に利用できることから高い評価を集めるもので、この「15AK」の業務用船外機としての耐久性、信頼性をまた一段と高めています。



個性あふれる250cc・クォーターバイクシリーズが大きな話題を集めるヤマハコーナにあって、これに劣らぬ人気を博したのが「XS1100LG」をはじめとする4サイクルビッグスポーツ、“小さな小さな街のク・ル・マ”ソフトバイク、そしてYZR500とYZM125の2台のチャンピオンマシン、さらに新しいエネルギー時代に対応する新技術のかずかず。「ビューティフル・モーターサイクルワールド」を創造するヤマハの幅広い技術に大きな共感が寄せられていました。

左が高品質・高性能、ヤマハ技術の象徴「XS1100LG」。“スペシャル”タイプの外観すべてをブラック&ゴールドで仕上げたその名も“ミッドナイト・スペシャル”(4サイクル、DOHC・4気筒、シャフトドライブ)

Beautiful Motorcycle World YAMAHA

ビューティフル・モーターサイクルワールド・ヤマハ



cycle World YAMAHA

モーターサイクルの世界を創造します。

は小さな小さなクルマがいい—YAMAHAソフトバイク

YAMAHA

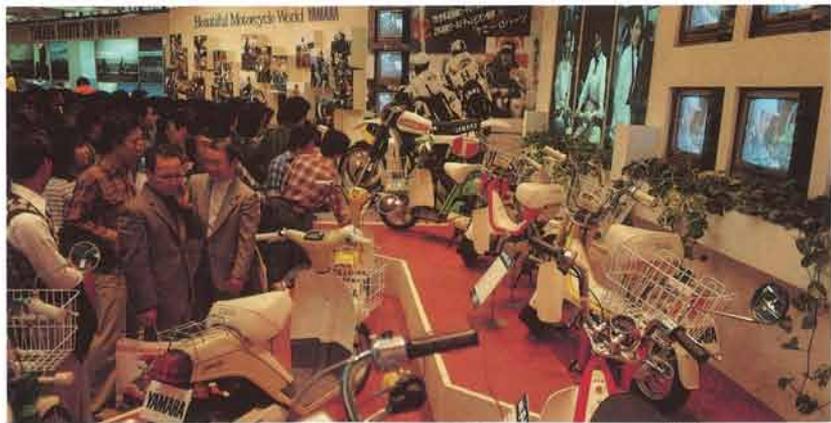


3タイプ、7機種、色がわりを含めて43機種もうすっかりおなじみの「街の小さな小さなクルマ」ヤマハソフトバイク。右端はアメリカでブームを呼ぶキャロットの輸出モデル「QT50」



◆ヤマハの限りない技術力、開発力を示して人気を集めたチャンピオンマシンYZR500(左)とYZM125。いずれも、YPVS、モノクロス・サスペンションなど先進のヤマハ技術がもり込まれている

世代をこえて、性別をこえて、最も多くの人々が熱心に腰かけていたソフトバイク。人びとの暮らしにしっかりと根をおろしたソフトバイクの象徴的な姿だ



今回のショーでも、人気のマツとなった「バイクランド」バイクの楽しさと手軽さを実体験するここには、連日試乗希望者の長蛇の列が、つづいていた

Beautiful Motor

ヤマハはより広く、より深く、より個性的な

Beautiful Motorcycle World YAMAHA



左からビッグシングル「SR400SP」、「XS1100LG」*ミッドナイト・スペシャル*そして「XS650スペシャル」*クォーターバイクとともに「ビューティフル・モーターサイクルワールド」を演出するヤマハのビッグスポーツ群

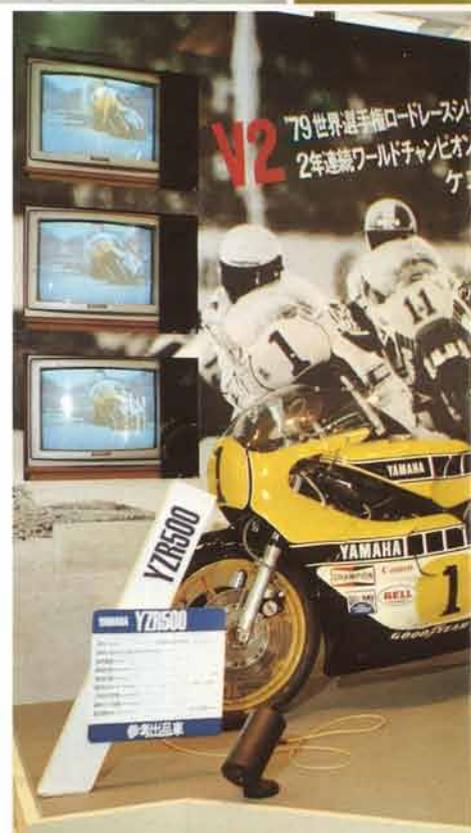


特別公開日の1日、ヤマハ発動機小池社長（右から3人目）のご案内で、ヤマハコーナーをご覧になるモーターショー総裁高松宮殿下。RZに、アルコールバイクに、特に興味を示されていた



◆アダルトユーザー、女性ライダー……スポーツバイクのユーザー層の大きな広がりをお示すようなお2人

◆ライダー予備軍、16才未満のヤングに、圧倒的な人気の50ccスポーツトリオ



50 CC新時代

'80年代の主流ヤマハ・クォーターバイク

YAMAHA SPORTS 250 新時代



スポーツの原点RD250、伝統のトレールDT250を加えて、全9機種の強力なラインアップ

YAMAHA SPORTS 250



超スーパースポーツ RZ250

2サイクル、水冷2気筒、モノクロス・サスペンション



SR250を250に再現
セルスターター



コンチネンタル・ロングツアラー XS250
4サイクル、OHC 2気筒



アメリカン・ホースバックライティング XS250 Special
4サイクル、OHC 2気筒

乗る人の心を主張する豊かな個性

250cc 新時代

新時代は、従来の250ccバイクとは異なり、4サイクルエンジンを採用し、より安定した走りを実現。また、250ccエンジンの特性を活かした、より豊かな個性を追求しています。結果、これまで以上に、乗り手それぞれに合った個性の表現を可能にした時代となりました。

- RZ250
- XS250 Special
- XS250
- SR250
- KT250
- TT250
- TT250
- TT250



ヤマハ250cc新時代を創るクォーターバイクシリーズは、期待の参考出品7機種に、ヤマハ

2サイクル・エンデュアローサー IT250
2サイクル、単気筒、モノクロス・サスペンション



YAMAHA SPORTS 250



オフロード・プレイバイク TT250
4サイクル、OHC単気筒、モノクロス・サスペンション



4サイクル・エンデュアロマシン XT250
4サイクル、OHC単気筒、車重113kg



ビッグシングルの味わい
4サイクル、OHC単気筒

熱心なファンに囲まれてにぎやかな表彰式。表彰台左から金谷、ケニー、サロン（第2ヒート）

華やかなスタート前のひととき。それぞれの国旗を手に、ファンの歓声に応える世界の超一流ライダー。いずれもヤマハで世界のロードレースに活躍する強豪たちだ。



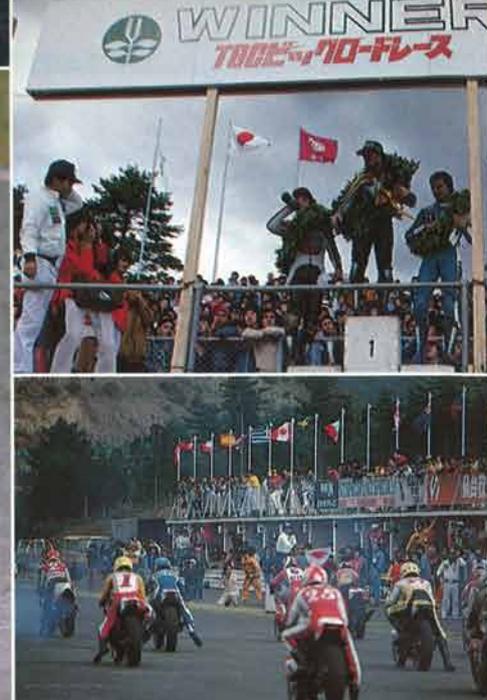
すばらしきスピードのドラマ

第6回 TBCビッグロードレース

モータースポーツシーズンの最後を飾る恒例のビッグイベント『第6回TBCビッグロードレース』が、10月21日、さわやかな秋空の広がるスポーツランド菅生に、2万人の観衆を集めて開催された。

世界GP500ccクラスの“キング”ケニーと世界選手権フォーミュラ750のパトリック・ボンズ（フランス）の2人の世界チャンピオンを筆頭に、過去最高の6名の外人選手を迎え日本のトップラ

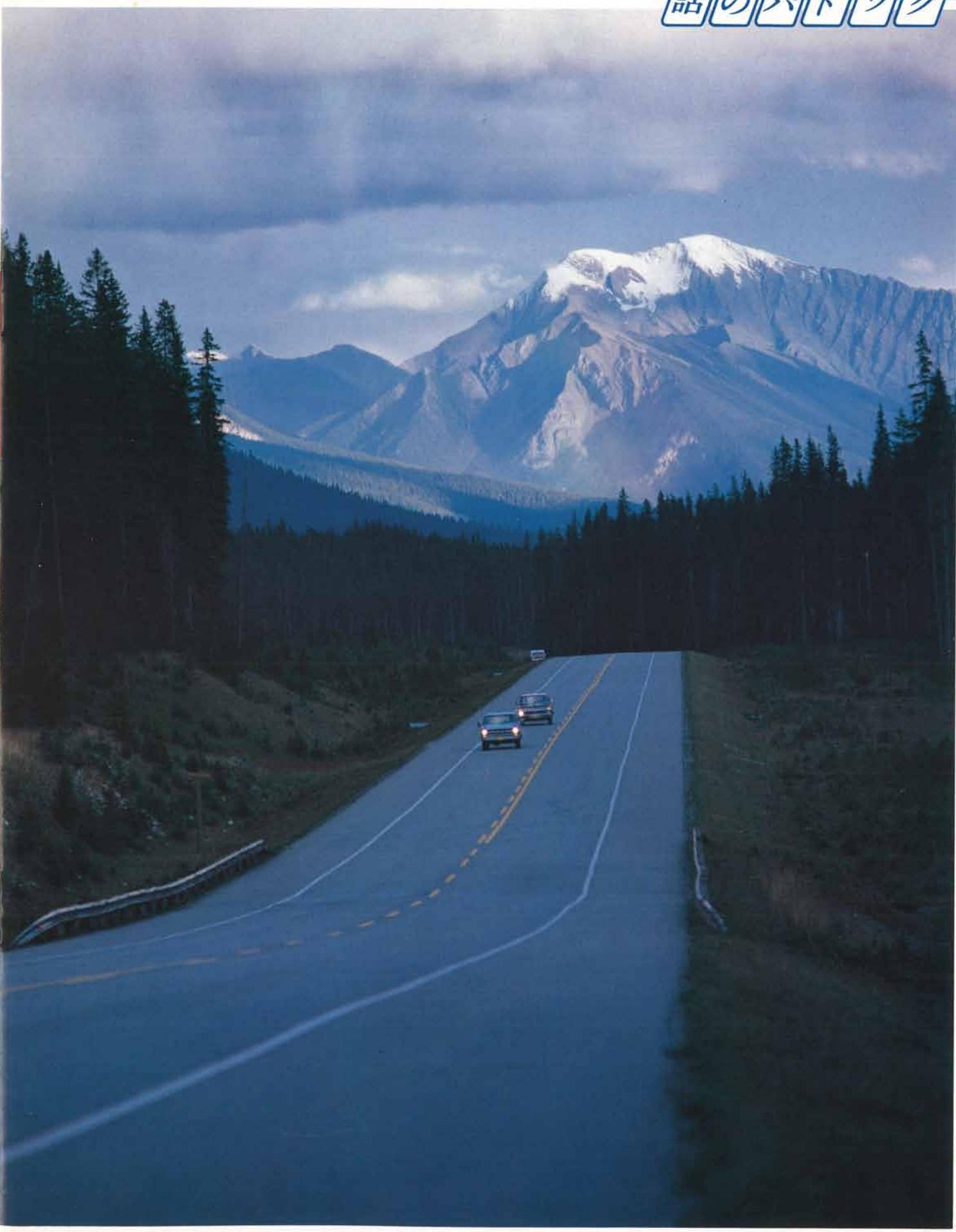
イダーとの間に、30周×2ヒートにわたる熱戦が展開された。“キング”ケニーと金谷秀夫、2台のヤマハYZR750による壮烈なデッドヒート。ボンズ、フルッチ、サロンらのヨーロッパ勢と浅見真男、水谷勝、上野慎一など日本のトップライダーとの白熱した攻防戦——6回目を迎えたこのロードレースのビッグイベントは、これまでも増して、モータースポーツのすばらしさを示すものであった。〈30ページに詳報〉



②金谷対Rケニー、内外の第一人者の激突。30周×2ヒートにわたって終始続けられたこのバトルこそ、華麗なるスピードのドラマだ

大観衆が固唾を飲む中で注目の第2ヒートのスタート







いまだんなことが話題になっているのでしょうか。これからどんなものが流行るのでしょうか。ヤングからミセスまでの話題と流行の情報コーナー「話のパドック」です——

● ソフトバイクのお客さまの大半は女性、それもお仕事をお持ちのご婦人がほとんど——というお客さま構成のお店も少なくはないでしょう。

有職女性や職業婦人から最近流行の「キャリアウーマン」まで、そんな働く女性の呼び名も目まぐるしく変わっていますが、何と先ごろの調査ではこれら働く女性の人口が2083万人にもものぼっている、といいます。これは日本のサラリーマン人口の3分の1以上を占めるもの。「キャリアウーマン」という、いかにも時代の最先端を行くような呼び名も去ることながら、改めて女性の社会進出のめざましさに驚かされるものですね。

ところが、こんなデータもあります。「女のしあわせ」についてのアンケートでは、働くことよりも結婚、恋愛、家庭……にしあわせを感じる女性が全体の60%以上を占めているとか。呼び方がどんなにカッコよくてもやはり女性が外で働くのは男性以上に苦勞の多いものようです。



● こんな女性にとってソフトバイクは、通勤の勞力軽減ばかりでなく気分転換、ストレス解消にまさにうってつけ！ といえそうですが、男性同様「ちよいと一杯」で明日の活力を養っている女性も増えているようです。

先頃都内で行なわれた「女性だけの利き酒会」にも「無料で存分に飲める」と450人の女性が参加。2時間の制限時間にもかかわらずわすれずか20分で用意された伏見の清酒34銘柄を味わいつくし、お気に入りの銘柄をじっくりと楽しむという猛者が何人も現われたというからオドロキです。

そして、「そんなに飲むんでは毎日の飲み代が大変でしょう？」という周囲の声に、「いつも男性のおごり」という声が圧倒的。酔うほどに財布の中味も忘れて気の大きくなる男性



とは逆に、飲んでも経済観念はしっかり、というのが女性ドリンクerの特徴だそうです。

● 熱しやすく冷めやすいは、日本人の常とか。そういえば夏場に急速な高まりをみせた国をあげての「省エネ。ムードもここへ来ていささか冷め気味。欧米人の眼からみると、日本人の生活様式にはまだまだたくさん無駄があるそうです。

例えば洗たく。アメリカでは、週に一度まとめて洗う家庭が多いようで、このほうが電気も水もグンと節約できる、というのが彼らの意見。スウェーデンなどでは、もっと徹底して個人では洗たく機などなくアパートの地下室の共同洗たく機を使うのだそうで、住空間まで節約していると鼻高々。

電灯のつけっ放しなども、欧米人から見るとずいぶん気になるようで、「使う時だけ点灯を」という習慣を欧米では子供の時からつけられているといいます。

日本人の紙の無駄使いを指摘する外人も少なくはありません。何を買っていてもいねいに包装紙で包むのは日本人の長所だが、省エネの観点からみれば失格。逆に学校の教科書などは、ドイツやフランスなどではとても立派で頑丈、後輩に受けついで何代も使いつづけているものの、日本のものではとても無理。なるほど、指摘されればどれもごもっともなことばかりではありませんか！

● ナイフやハサミを使えない子供など決して珍らしくはない、という昨今です。カセットテープから流れる童話を聞いて幼児期を過し、やがて物心つくとテレビゲーム、小学生ともなるといっばしのオーディオマニアに……といますから末恐しい感じさえするではありませんか！?

ところが、やはり子供の心は今も昔も……と安心させられるようなこんな話もあります。「おまけ付きお菓子」に対する子供たちのア

ンケート調査です。

なぜ「おまけ付きお菓子」を買うのか？ というと、おまけのおもちゃ目当ての子供が42%。対してお菓子そのものの欲しさというのは、5.5%に過ぎないといいます。こうして買ったお菓子を「ほとんど食べない」子供が7.5%もいるそうです。

データはさておき、「なぜあんな小さなおもちゃに、それ程魅力を感じるのか？」といえば、子供にとってはどんな小さなおもちゃでもうれしいもの。そして何よりもどんなものが入っているのか、という夢と期待感を抱かせてくれるから——といえそう。やはり子供の夢や冒険心は、どんな時代にも変わらぬようです。



● 11月から専売公社が、創立30周年を記念して「懐しのたばこデザイン」と銘打った記念たばこを売り出しています。昔なつかしい「光」「サンライト」「スマイル」「スター」「エアシップ」の5種のパッケージが再現されて、中味はいずれもマイルドセブン。「ああ、オレが親父の目をかすめて初めて喫ったのがこの光だった」なんてオールドファンの間で人気も上々のようですが、たばこと言えば今アメリカの生命保険会社では、愛煙家の掛け金を喫わない人よりも高くしよう、という動きがあるそうですから、ヘビースモーカーにはびっくり。

理由は喫煙者の寿命が喫わない人に比べて7.3年も平均で短い、というデータがあるからとか。「この差は男女の平均寿命差5年を上まわっているから無視できない」と当の保険会社はしたり顔。ただ死因はすべて病気ではなく、交通事故死も喫煙者の方が2.6倍も多いとか、殺人、自殺率も高い……などとまていわれると、どうも喫煙者を煙たがっているようで、首をかしげたくるところもある話のようです。

〈バイクで走る世界の道〉カナディアン・ロッキーの山なみを背にどこまでも果てなくつづくTC1 (トランス・カナダハイウェイ)。やがてマントバの大平原、オンタリオの森と湖、モントリオールなどの大都市を経て大西洋岸のセントジョンズまで、行程8000キロという気の遠くなるような旅がつづく。

こんにちは
ヤマハです

川口輪業 川口信雄さん

栃木県大田原市末広町2の1
☎02872-2-2397

免許教室、安全点検、訪問販売を3本柱に

「この冬も、お客さまと積極的な接触を！」



會間口7.5間、奥行き5間の堂々とした店舗と大量な展示車が、お客さまに大きな信頼感を与えている

◆メイト、ソフトバイクから50ccスポーツ、ビッグスポーツまで店内の品揃えもみこと。この展示場とは区切られた6坪の作業場がある



5年前の昭和49年、その前年に購入した約100坪の土地に、40坪近い立派な店舗を構えて新装開店した「川口輪業」さん。
そのスタートは多額の借入金によるもので、毎年前年の120%の増収によって、これを返済していく、という計算をよりどころとしたシビアなものでした。
地方の小都市、しかも農業を主体とした商圏の中で断行した思い切った店舗づくり。しかし折りからのソフトバイクブームの中で、この立派な店構えと優れたサービス力、販売への積極的な取り組みは着実に功を奏し、販売台数を年々倍増させる、という躍進ぶりを示して借入金の返済ペースも予定をはるかに



「あなたかウィンター・バイクフェア」の店飾もすっかり完了した店頭で、この冬のご売上に意欲も新たな「川口輪業」のみなさま。左から奥さま洋子さん、信雄さん、義雄社長

上まわるハイペースとなっています。そして「川口輪業」さんは、お店の基盤固めと拡販の手を冬場を迎えた今も休めようとはしません。

「需要が停滞する冬場こそ、店と自分たちをよりつよくお客さまに広めておく、1人でも多くの人と積極的に接することが大切」と免許教室に、安全点検にそして訪問販売にと日光連山から吹きおろす肌を刺す北風の中にもエネルギーな活動をつづけています。

商圏を広げるスポーツバイク ファミリー、スポーツ それぞれに積極的な 需要創造活動

大田原市内はもとより栃木県下でもトップクラスの販売実績をあげている「川口輪業」さん。自転車との併売で月商約500万円とのことですが、人口4万6千人足らず、農業を主体としたこの町で、これほどのご売売を展開されている要因は？ 創業者であるお父さん川口義雄社長の後を継ぎ、いまは主力となって活躍されている信雄さんに分析していただきました。

「商圏の特徴として真っ先にあげられるのは、この町には鉄道がないことです。最寄の駅は東北本線の西那須野駅。店から4キロも離れています。そして第2は、大田原市には特別な産業がなく、未だに農業が中心ということ。最近ようやく市が工業団地を造成し大手の工場誘致に乗り出していますので、大手の電機メーカーの工場が建ち今年約2千世帯の人が移ってきたり、来年は大手コンビニエーター会社の工場建設が決定しているなどこれからは転入世帯が増えて、様相も大分変わってくると思いますか……」

「当然お客さまの主体は地元の方がたすね」というこちらの平凡な質問に信雄さんは「ファミリーと実用車に限ってはネ」と念を押すように話されたのが印象的でした。そういえば、店内に展示されたバイクの中

にも中・大型スポーツ車の陳列が、かなり目立っています。

「各家庭の奥さまは、買い物もかなり遠方まで出かけてはなりませんので、ファミリーバイク等は地元中心に着実に販売を伸ばしています。しかしここでは地元の農業・工業高校が交通の便を考慮して制限付きでバイク通学を許可しているの、高校生のお客さまも多いのです。」

それと、この近所ではうちが一番最初に中・大型スポーツ車の販売に取り組んだこと、徹底したサービスを心がけていることで、お客さまがお客さまを呼ぶ形でスポーツバイクが増えているのです。」

なるほどこれが先ほどの念を押すような言葉の意味か、と改めて知らされたものですがこのスポーツ車によって商圏は周辺30キロにも広がり、販売台数の3分の1は250ccというかがって、さらに驚かされたものでした。

一週間に10軒のペースで お客さまを訪問 50%を実売に!

ある意味では都市部などと同様に恵まれた環境にあるともいえる「川口輪業」さん。しかし、こうした好条件も精力的な需要創造活動があつてはじめて生まれて来たことはいうまでもありません。サービス技術の修得のために宇都宮市の「山形輪業」さんで2年間修業したという信雄さんは、この技術力を柱にファミリー向けに、スポーツ向けに積極的な需要創造の作業をつづけています。

「もちろんサービス力とこの店舗が、お客さまの信頼感を生んでいると思います。販促活動は、まだまだ手不足で不満ですが、スポーツ車のお客さまに年に1度のツーリング大会と1・2度のトライアル大会を実施しています。トライアルの盛んな土地ですから、15名の「大田原トライアルクラブ」もあります。」

そして、もうひとつの大きな活動が毎年春と夏の2回恒例となっている「川口輪業バイク総合展示」とか。

あたたか WINTER バイクフェア

で、'80年商戦のスタートを
もりあげよう!



この冬、ファッションブルにコーディネートしましょう。



年末・年始のご商売を皮切りに、いよいよ'80年商戦のスタートです。積極的な打って出る、ご商売こそ'80年代への飛躍のキメ手。「冬はバイクのオフシーズン」などという時代ではありません。この冬こそ、打って出るご商売の展開で、'80年代へどうぞ快調なスタートダッシュをお示しください。

冬も積極的に打って出る販売店みなさまをバックアップさせていただくために、ヤマハでは「あたたかウィンターバイクフェア」の豊富な店飾ツールセットをはじめ、お客さまへ冬も暖かく活動的なバイクライフをおすすめする「YAMAHA冬のソフトバイクカタログ」など、タイミングをとらえた効果的な販促ツールをご用意しました。

どうぞ有効にご活用の上、この冬のお店のご商売を、さらに活発にもりあげてください。

写真は、年末商戦を迎えて「あたたかウィンターバイクフェア」の店飾ツールで、冬の店



頭を華やかに活気づける東京足立区の「オートサイクルショップ多田」(多田芳明社長)さん。
●横断幕 ●のぼり ●シーリングポップ ●手描き用告知ビラ ●ウインドペインティング用型紙とスプレー ●連続モール……などもりだくさんのツールを駆使して、ひときわ活発な冬のご商売がくりひろげられています。

一方写真左は、この時期にマトを絞ったお客さま向け冬のソフトバイクカタログ。「この冬暖かく、ファッションブルに乗りましょう」と冬も快適な、活動的なバイクライフの生活提案をしながら、免許教室、乗り方教室、安全点検サービス、さらにはらくらくクレジット等をご紹介します、お店のみなさまのセールス活動をサポートするものです。どうぞあわせて有効にご活用ください。



昼間は業務用のお客さま、夜は一般家庭、週10軒ペースで続けられている積極的な訪問販売も、冬場を迎えますますます活発になっている

「これには、若いお客さんを中心に毎回10名以上の方が自発的に協力してくれるのですが、それぞれが仲間を連れてきてくれ、これがお客さまを増やし、販売台数を増やす大切な催事となっています」
ファミリーバイク向けには、合同免許教室と希望者に奥さま・洋子さんが実施している乗り方指導。そして、特にこの冬場から来年にかけては、こうした新規需要の開拓と合わせて、代替促進のための活動にも特に力が注がれています。

「新規、代替えを問わずうちは、手掛りのあった人に対する訪問販売とくに力を入れているのです」
この活動はほとんど夜ですが、週に5日、1日2軒の割りりてこなして、見込客の50%を販売に結びつけています。これがうちの商売の一番の特徴ですね。
こうした手掛りを発見するために、免許教室や安全点検といった形で普段から1人でも多くのお客さまに接するようにしているのです。年間を通して需要期に片よりのない業務需要の方、新聞屋さんや酒屋さんへは寸暇をさいてバイクの調子をうかがいながら訪問するように努めています。特にこれからの冬場は比較的時間も出ますので、絶好の季節です」
こうして、サービスの合間をみては、商圏にとび出していく「川口輪業」さんです。

安全運転と健康管理をめざして 『ライダー体操』をひろめよう!

先月号でもご紹介しましたように、冬場の安全運転のアドバイスといっても服装やメンテナンスのチェックから、走行中の注意までいろいろです。そこで今回は、さらに『ライダー体操』についてひと言ふれてみましょう。この『ライダー体操』は、すでにヤマハライディングスクールでもおなじみですが、ヤマハ安全運転推進本部が日本体育大学教授・塩谷宗雄医学博士の監修のもとに開発したものです。その名のとおりに、バイクを安全に運転する上で必要不可欠な4種類の体操の組み合わせから成り立っているものです。



からだの動きを
スムーズに

1. 仕業体操

バイクをスタートさせる前に、身体のウォーミングアップのために行なう体操です。

運転の初めに事故が多いのは、まだ身体が固いために運転に必要な目と手と足の複雑な協応動作が円滑にいかないからです。従って、その協応動作がスムーズにいくように、運転の始めに準備体操をすることが大切です。

また、身体のウォーミングアップをすると、運転中の疲労度も少ないという利点もあります。仕業点検と同様に仕業体操を習慣づけるようアドバイスしてください。

- ①背のび
- ②かけ足
- ③手首振りりと足首の曲げ伸ばし
- ④ひざ屈伸
- ⑤伸脚
- ⑥前後屈
- ⑦回転
- ⑧深呼吸

神経と身体の疲れを解きほぐす

2. 運転中のリフレッシュ体操

運転中、ちょっと車を止めて、神経と身体の疲れを解きほぐす体操です。

長時間、長距離の運転に事故が多いのは、運転中の疲労がたまってくるからです。とくに目や神経は、常に前後左右に気を配っていなければならないので、体操をして疲労を回復させるよう注意しましょう。



乗り方教室などでも、ぜひ実施したい「ライダー体操」。写真は、東京モーターショーのバイクランドで

また、長時間運転し、同じ姿勢を保っていると、運動不足から全身の機能が低下しますので、体操により筋肉や内臓の状態を調整することも肝心。5分走って10分休憩、さっさと車を降りて下のような体操で体の調整をはかりましょう。

- ①目と顔面のマッサージ
- ②両肩の回転
- ③両手のマッサージ
- ④手足、肩、首のとんとたたき
- ⑤ぶらぶら歩き
- ⑥大アクビ
- ⑦ぶら下がり

からだのコンディションの調整運動

3. 終業体操

運転終了後、身体のコンディションを整え健康を守る体操です。

バイクや四輪車の運転時間の長い人は、ど

うしても運動不足になりがち、それでいて疲労は蓄積し、なかなか取れにくいのも事実です。これは運転中に使用する筋肉が限られていること、と絶えず神経を使っているためです。これによる腰痛や肩コリ、内臓の下垂などを防ぐために、日頃の調整運動も必要です。

終業体操と終業点検で、人もバイクもベスト・コンディションを維持するようアドバイスしてください。

- ①ぶら下がり
- ②足首振り
- ③左右側屈

朝と夜に寝床で行なう体操

4. 家庭体操

朝起きたとき、夜寝る前、いずれも寝床の中でできる健康体操です。

人間は朝起きたときは、夜寝る前に比べると身長は3センチ位大きいのですが、身体が固くて、もろくて、動きが鈍くなっています。敏捷さをみる反復横とびでは20秒間に3回位は遅いし、柔軟さをみる立位体前後屈でも身体が10度位は固くなっているのです。

そこで、まず寝床から出る前に軽く体操して1日の気分を明るくし、また夜寝る前にも体操して心身のひずみを調整し、熟睡できるようにおすすめしてください。

- ①のび
- ②手指と足首の曲げ伸ばし
- ③左右側屈
- ④上体前屈

なお、これらの体操の詳細につきましてはヤマハ安全運転推進本部発行の小冊子『ライダー体操』(上写真)に解説されていますのでご熟読ください。また、販売店さま主催によるお客さまを対象とした安全運転講習会やツーリングクラブ等のミーティングでご利用の際は無料配布させていただきますので、ご希望の方は担当セールスマンまでお申し込みください。ただし、部数に限りがございますので、1店さまにつき20部の限定とさせていただきますので、よろしくお願いたします。



商売繁盛

これからの販売店経営

12

さて、12月は個人事業者の決算月です。1年間の締めくくりとして、その決算処理と節税のポイントを取りあげ、1年間おつきあいいただいたこのシリーズの最終回とします。

決算処理と「節税」のポイント 1年間の営業成績の把握と節税対策を考える

決算の意味を正しく認識しよう

年間経営目標を着実に推進し達成するためには月次決算を確実に実行し、常に経営上の問題点を把握して次以降の対策に生かしていくことが重要なことはこのシリーズの第3回で詳しくご紹介しました。その意味で決算月だからといってとりたてて慌てたり、特別の配慮を要しないお店もあることでしょう。しかしこの機会に、いま一度決算を行なう役割を確認してみましょう。それは期間内のお店の儲けの計算、資金の有効活用の有無等、営業成績を数値で客観的に把握することにあるわけで、現状のお店の病状の対策や、次年度以降の経営方針、戦略の策定に供する大切な指標となるものです。また設備計画や従業員の待遇改善、成果配分といった内部体制の計画的充実や、仕入先、金融機関等の外部利害関係者との信頼関係の確立にも欠かせない役割を果たすものです。

一方、今一つの決算の役割は、帳簿の締め切りという会計処理を通じてお店の所得金額を確定し、その結果で税務申告という手続きを行なうことです。

従って、通常月とは異なり、決算処理上で節税対策を十分考慮に入れなければなりません。そこで誤解を生むといけませんので最初に念のため申し上げておきますと、節税とは納めなくともよい税金を納めないで済ませる

こと。で、税法を無視して税金をのがれる脱税とは異なり、合法的に税負担を軽くし、余計な流出を防ぐことです。

毎年、脱税者の摘発は後を断ちませんが、税負担の公正さという観点からみると、節税はむしろ正しい経営行為といえるでしょう。

単に10万円の節税といっても、純益を10万円上げるためには大ざっぱに見て200万円も売り上げを伸ばさなければならぬのですから、「節税」に無関心ではいられません。

いずれにしても年間を通しての正しい記帳と税務知識が前提になるわけで、行きあたりばったりのドンブリ勘定では正確な営業実績の把握はおろか、節税対策も打てないことはいうまでもありません。

従って本テーマではすでに、青色申告を実施して記帳を行なっているお店を前提に話をすすめますが、開業間もないお店や、現在検討中のお店のために青色申告について先にお話しておきましょう。

青色申告はなぜ有利か？

青色申告は確定申告の時、青色の用紙を使用することからそう呼ばれていますが、記帳義務と決算書の提出が義務づけられています。

それだけに税務当局では白色申告のように適当に推計して税金をかけることはできません。従って税務署のいいなりに税金を余分に納めることもないわけです。次に、どんな特

典があるか主なものをおあげてみましょう。

(一) 青色専従者給与が必要経費として算出できます。

奥さんや息子さんなど家族労働者の給料、賞与が事業主が適正と思う金額で必要経費に算出できます。白色申告の、一人について最高40万円と比べると大変なちがいです。

(二) 引当金、準備金繰入額も必要経費として算入できます。

(三) 前五年以内の欠損金の控除と納税金の還付請求ができます。

(四) 普通の減価償却以外に特例としての割増償却が認められます。

(五) 税務調査をした上でなくては勝手に更正処分を受けません。

その他白色申告では受けられない青色申告控除やさまざまな特典があり、青色申告をしていないお店も次年度こそは前向きに取り組むべきでしょう。

青色申告をする時は、その年の三月十五日までに所轄税務署に申請しなければなりません。





なので今から帳簿の整備等を準備すれば十分間に合います。
次に決算にあたっての留意点をいくつかあげてみましょう。

決算に当たっての留意点

その1、収益(益金)は正しく計上

収益があがったとか、さがったとか一般によく口にしますが、収益と利益とは異なりますし、また税務的にみた益金ともちがうのです。これをわかりやすく式に直しますと

① 総収入金額 - 必要経費 = 事業所得金額

つまり、収益から費用と損失を差し引いて利益が算出されるわけですから収益は費用との対応で考えねばなりません。

一方税金は何に対してかけられるのかという点

個人事業の場合

総収入金額 - 必要経費 = 事業所得金額

会社経営の場合

総収入金額 - 必要経費 = 事業所得金額

ということになります。従って総収入金額や益金を正しく算出することが決算処理、税務申告の基本となります。

売上収入、リベート収入、保険手数料、貸倒処理済の入金、クレーム工賃収入等外部資料で明らかになるようなもの計上もあればいかチエックしなければなりません。

また企業会計上の収益と税務上の益金はイコールではありません。例えば受取配当金は収益ではありますが税務的には益金ではないのです。逆に無償でもらったものも税務的には時価評価にて益金となります。

このように節税対策としては収益(益金)は正しく計上し、次の費用(損金)でその対応を考えるのが基本です。

その2、必要経費こそ

節税のポイント

赤字のお店は別として節税のポイントは必要経費です。必要経費が大きければ大きいほど

所得金額は小さくなります。総収入金額をあげるためにかかった売上原価、付属品等のサービス費・広告宣伝費や、事業を継続するためになかった費用を、確にかかった費用と認識したら、遠慮せずに計上することです。それでは必要経費をもう少しはつきりさせてみましょう。

① 総収入金額をあげるために要した売上原価等

② 年度期間中における販売費、一般管理費、その他事業を営むために要した費用

まず、売上原価ですが売上原価は左上の計算で確定します。

①	前年末からの繰越在庫	××
②	当年中の収入高	××××
計		
③	当年末の在庫商品	
④	当年の売上原価	(③-④)

そこで注意を要するのは年末の棚卸による在庫が売上原価に影響しますから、車輛(中古車を含む)や部品、用品の数量の正確な確認や金額評価を適正に行なうことです。特にサービスの計上もれや仕損不良に注意し、実費による照合を怠らないことです。

次に一般経費ですが、すべて年末現在で、支払うべき債務が確定していることが必要です。請求書や納品書等の証拠を備えておかなければなりません。また店舗と自宅が同一棟の建物になっている場合、電気代、水道料等の光熱費の計算は、面積割等て使用料の按分をあらかじめ決めておくことです。自宅使用分はもちろん経費になりません。その他、税務上、必要経費にならないものがいろいろありますが、遠慮せず、税務署や税理士に聞いて確認するようにしましょう。

その3、金銭支出を

ともなわない費用

金銭の支出をともなわず税務上経費に認められるものにもいろいろなものがあります。お店の経費にとってこのような経費こそ極めて

て実益的です。

その一つは減価償却費です。店舗設備、車輛等の固定資産が毎年減少する価値を一定の比率(定率法と定額法がある)で償却して費用とするものです。

具体的な節税対策の第一歩としてこの減価償却制度を正確に知っておく必要があります。

次に引当金と準備金です。これも別段金銭が支出されるわけではありませんが、これらの引当金、準備金を利用しているお店が少ないのは驚くばかりです。昭和五十二年の国税庁の調べによりますとその利用率は、

貸倒引当金	34・7%
賞与引当金	13・8%
退職給与引当金	7・8%
価格変動準備金	21・9%

となつています。貸倒引当金やその他の引当金等を損金にすれば、それに見合う分だけ、税金は安くなります。それなのに一番多い貸倒引当金でも40%に充たないということはどうしたことでしよう。また従業員がいれば、退職給与引当金や賞与引当金が計上できます。勿論制度の文書規定化や所定の手続きが必要ですが、まずそれらの手続きや、計算を面倒がらずにお店のためと思って実行することです。まだこれらの引当金を計上していないお店は早急を実施するようおすすめします。

その4、会社と個人と

どちらが有利か

その他、これらのお店での節税課題として、法人化の問題があります。ほとんど法人化しても同族会社であり、会社にして役員報酬を受けるわけですから、納税の主体が会社と個人に分れるだけです。

課税所得の大きさによって法人税と所得税の割合で有利か不利かが決まっていますが、ある程度以上の所得のときは会社組織の方が節税になるかもしれません。ただ法人化は税務面だけでなく資本と経営をはっきり分離するといった経営的判断とこれらのお店の方針を優先すべきでしょう。(おわり)

今回もまた世界の超一流ライダーが多数出場して、シーズンの最後を華やかに盛りあげた『第6回TBCビッグロードレース』。迫力あふれるレース展開は、ロードレースのダイゴ味を存分に堪能させてくれるとともに、来シーズンへ向けてのさまざまな話題を提供してくれたものであった。



ケニー・ロバーツ、「キング」の実力を披露!

第6回 TBCビッグロードレース

2人の世界チャンピオンを含め
6名の外人ライダーが出場

10月21日、菅生ロードコースに内外の超一流ライダー15名を迎えて盛大に開催された『第6回TBCビッグロードレース』は、昨秋の第4回大会同様に世界GPや世界選手権フォーミュラ750など、世界のメインシリーズ戦の終了後とあって文字通り世界のトップライダーが顔をそろえた華やかな国際レースとなった。

その顔ぶれは、世界GP・500ccクラスにV2の偉業を達成して間もないケニー・ロバーツと世界選手権F750にTZ750を駆って出場、初の世界制覇をなしとげたバトリック・ボンズ（フランス）の2人の世界チャンピオンを筆頭に、F750ランキング2位のミッシェル・フルッチ（スイス）、GP500ccにヤマハワークスの一員として出場した若手のホープ、クリスチャン・サロン（フランス）そしてアメリカの若手ナンバード、ランディ・マモラさらにイギリスのデーブ・ボッター……と世界のランキングライダーが一堂に会したものだ。

もう一人のヤマハラライダー、ジョニー・チエコット（ベネズエラ）と日本のエース高井幾次郎の交場が惜しまれたが、日本からもエース金谷秀夫、世界選手権F750ランキング4位と今年はヨーロッパで大活躍の浅見貞男、さらに国際A級750ccクラスの新チャンピオン水谷勝そして毛利良一、上野慎一らのトップライダー9名が出場、文字通りのビッグロードレースとしてファンの注目をさらったものであった。

ケニー対金谷の一騎打ち!

一周2・655キロの菅生ロードコースを30周×2ヒート、計60周にわたって争われるレース。

前日の予選ではYZR750の金谷が一分一秒も差でポールポジション、TZ750の水谷勝が100分の68秒差で2番手として浅見が水谷に100分の6秒の僅差で3番手とスタート第一列をすべて日本人ライダーが独占して注目された。

しかし、台風の後波の残る予選日から一夜、

Motor Sports Highlight



つめかけた報道陣を前にレース直後の記者会見



1年ぶりの菅生に余裕十分のケニー、そして日本の第1人者金谷



↑ P/ボンズ、F/フルッチ、S/サロン、TZ750の3台のヨーロッパ勢も世界のトップらしい見ごとな走りを見せてくれた

← 世界選手権 F 750 でどもに走った浅見(右端)を囲んでなごやかに話しあう、F750チャンピオンのボンズ(左)、同2位のフルッチ(中) 後方は左からポッター、サロン、マモラ
チャンピオン・ボンズはバリの2輪販売店経営者だ

→ 菅生の森に750ccレーサーのサウンドがこだまして、大迫力「ビッグロードレース」のスタート

うって変わった秋晴れのもとでスタートした決勝レースでは、ケニーと金谷、2台のYZR750が群を抜く速さを見せて壮烈なデッドヒートを展開。つめかけた2万人の観衆を熱狂させた。

第1ヒートでは、なんと100分の7秒差という雪崩れ込むようなゴールでケニーが優勝。第2ヒートでも終盤まで、こんな接戦が再現されたが途中一時的に降り出した雨で金谷がベースダウン、ケニーが「キング」の実力のほどを見せつけて完全優勝を果し、日本のレースでは最高の優勝賞金120万円を獲得した。それにしても内外の両雄がくりひろげた1分一秒台というハイペースでのデッドヒートは、見応え十分なものでスリリングなロードレースの魅力を示すところなく示すものであった。

一方、3位以下のレース展開も興味深く、ボンズ、サロン、フルッチのヨーロッパ勢と浅見、水谷、上野らの日本勢の好フアイトが大いに会場を沸かせたが第1ヒートは浅見がまた第2ヒートはサロンが、この混戦を抜け出して3位入賞を果たした。

なお、この第6回大会の総合順位は、1位ケニー、2位金谷、3位フルッチ以下ボンズ、サロン、浅見、毛利、マモラ、上野の順。

『今年は最高のシーズン』

また、レース終了直後つめかけた報道陣の前にケニーと金谷、2人の記者会見が行なわれたが、この席でケニーは――

「今年最後のレースに勝ててうれしい。特に第1ヒートは、自信を持って最終ラップの最終コーナーで、金谷を交わした快心のレース。第2ヒートの中盤までは、金谷の追い上げがすこく、だいぶハイペースになってしまったが」

また、今年のGP500ccを振り返って――

「シーズン直前のケガで復帰第1戦のオーストリアGPから少しはベストコンディションではなかったが、YZR7500としてタイヤも好調で、比較的楽なシーズン、最高の1年だった。ライバル? それはフェラーリとシーンの2人です、やはり」

と、貫録も十分に語っていたものであった。



荒井自動車学校では、卒業生を対象にパッソルが当たる乗り方教室も実施中



自動車学校で乗り方教室 着々とタイヤアップ化が実現

〔ヤマハ神奈川県〕 ソフトバイク・ユーザの急激な増加とともに、ここに来てとみに話題が高まっているのがその安全運転指導について。ここ神奈川県下では、なかでも自動車学校の積極的な取り組みが目立ち、ヤマハの安全運転指導員のお店や社内インストラクターとの協力による乗り方教室や事前講習、出張試験等が続きと開催されています。

伊勢原市の荒井自動車学校戸田校でこのほど開かれたのが、四輪教習を終了の卒業生を対象とした乗り方教室。普通免許を取得しながらバイクに乗れない人のためにと、地元の柴崎オート厚木店をはじめ小菅サイクル、瀬尾輪業の各お店の協力により開かれたこの教室には卒業生全員が参加。今後も毎月第3日曜日に定期開催が決定するなど、好評を博しました。



一方、足柄上郡の松田自動車学校では、従来松田警察署で実施していた原付免許試験を肩代わりして出張試験を実施。地元の本美サイクル、剣持商会、吉田モーターズの各お店をはじめとして、ヤマハインストラクター、自動車学校指導員の協力によって事前講習と実技講習が行なわれました。

ニューYZシリーズ発売に合わせて 試乗会とRSSS店技術講習会を開催

〔東京支店〕 全国各地のSLSIモトクロス戦も大盛況のうちに最終戦を迎えています。この富士スピードウェイで行なわれた富士シリーズの

大学内に吹く「ビューティフル・モーターサイクル」の風

〔ヤマハ南九州〕 大学生にバイク・ユーザの増加が目立っている昨今、



↑九州学院大学「チーム・たごさく」のツーリング風景
◆鹿児島大学「チーム・アタック」の機関誌「KAZE」

全国各地の大学ではモーターサイクル同好会の活動も積極化の一途をたっています。

ここにご紹介する鹿児島県の鹿児島大学や九州学院大学の同好会も、そんなグループのひとつ。試験休みや大学祭を利用しては、ツーリングや活動報告会を行なうなど、積極的にモーターサイクルの普及活動を展開しているのです。

鹿児島大学のモーターサイクル同好会「チーム・アタック」がこのほど創刊したのは、「KAZE」という機関誌。体裁こそ色刷りの13ページなもの、その内容はツーリングレポートあり、エッセイあり、論文あり、と若い主張が満載。地元のオートショップ大栄（弥栄義夫社長）さんの指導よろしく、真のモーターサイクルを見きわめようと活動しています。



また、九州学院大学のモーターサイクル同好会「チーム・たごさく」では、前田モーターズ（前田貞弘社長）さんの協力のもとにツーリング活動を通じてクラブ員相互の親睦と地域を超えたバイク仲間との連帯を追求。この11月には大学祭でその活動報告の展示会を開くなど、幅広いバイクの普及活動を展開しているのです。

'80年代もまかせておけ！ スポーツ店会議に230店が参加

〔東京支店〕 このところスポーツバイク市場で著しい飛躍を遂げている関東地区ですが、この11月2日に

は東京・芝の東京プリンスホテルで東京支店主催のスポーツ店会議が開かれました。管内の約230店のヤマハ・スポーツ店を集めて、80年度のスポーツバイク政策の一端をご紹介するなど、80年代におけるスポー



陸のヤマハ★海のヤマハ★世界のヤマハ

お便り、お電話、お待ちしております。

ヤマハニュースは、販売店みなさまの情報誌です。みなさまの積極的な誌上参加をお待ちしております。これは、/ と思う話題、明るいニュースなど、どうぞお気軽にお寄せください。取材要請ご質問、ご相談も大歓迎です。宛先は——
〒438 静岡県磐田市新貝2500 ヤマハ発動機株式会社
広報部PR課「ヤマハニュース」係
☎05383 (2) 1111 内線356



バイク・ファンのアイドルめざせ! 販売店さんのご子息が 歌手としてデビュー

歌うは丸山健二作詞
『ソロ・ライダー』



【ヤマハ南九州】 バイク人気が高まるにつれ各方面でバイクの話題が賑やかですが、こちらはレコードのお話。というのも、鹿児島県日置郡松元町の「協和モータース」(伊地知克己社長)さんのご子息・伊地知正クン(18歳)が、このほどオーナーパイオニア(株)からNHKニューソング『ソロ・ライダー』というレコードでデビューしたからです。その芸名も『鷹見拳』。すでに10月28日にはNHKの『レッツ・ゴー・ヤング』にも出演し好評を博しましたが、今後の活躍が楽しみといえそう。ちなみにこの歌の作詞者は、モーターサイクル・ファンとしても知られる芥川賞作家の丸山健二氏。応援してあげましょう。



最終戦では、ヤマハ発動機(株)東京支店によるニューYZ80、125、250の試乗会も併催。モトクロス・ファンの間で大きな反響を呼びました。
また、これに合わせて同会場のドライバーズ・サロンでは、東京支店管内のRSS店さんを対象とした技術講習会も実施されましたが、こちらも新しいモノサスの取扱い等の説明が行なわれた販売店さまは皆、いちょうに「80年のSLモトクロス・シリーズはニューYZの台風が吹き荒れる」と来年度商戦の抱負を語っていました。

さらには強固な結束を確認
560人のUSA、
カナダ・ディーラーが来日
ヤマハバイクの第2の市場ともいえるアメリカ。そのアメリカにおけるヤマハのディーラー・ミーティングはこの10月末に行なわれましたが、それに出席した500人のYMU Sディーラー、60人のYMCAディーラーの一行が去る11月1日に大挙来日。ヤマハとの結束も新たに、80年代の北米商戦における抱負等を確認しました。
空路、東京に到着した一行は、その後4班に分かれて79東京モーターショーの見学や京都観光を行ないましたが、11月5日にはヤマハ本社のある静岡県磐田市市民文化会館で小池久雄社長ほか役員、関係部課の担当者を迎えを受けディーラー懇談会も開催。小池社長は遠来の一行をねぎらうと共に日頃の協力に感謝の言葉をのべ、80年代を迎えるの展望を語り歓迎の挨拶をしました。
このあと、一行はつま恋に移動、旅装をといて歓迎パーティーに出席したのですが、それぞれの楽しい語



ツバイク商戦の意気込みを、披露しました。
会議は、まず開会の辞の後に今年度優秀スポーツ店の表彰式、平井五郎東京支店長による挨拶、吉本同課長によるビッグバイク需要動向についての説明が行なわれましたが、さらに本社・商品企画課の小山課長からは80年度ニューモデルの開発背景と商品説明が述べられるなどより上りを見せたもの。
一行はその後の懇親パーティーに引き続き、大型バス5台を連らねて東京モーターショーを見学。80年商戦の核となる250ccバイク群を目前にして、「80年代商戦もまかせておけ」と意気を高めていたものです。



らいと想い出を残して11月8日に帰国の途につきました。



今回のモーターショーに展示された2台のチャンピオン・マシン『YZR500』と『YZM125』は、ヤマハの限りない技術革新の姿勢を示して話題を集めたものですが、両車に共通して関心のマトとなったのはモノクロス・サスペンションとYPVS。いうまでもなく世界のモータースポーツをリードするヤマハ独自の画期的な新技術です。そこで今回は、いま話題の「YPVS、ヤマハ・パワーバルブ・システム」についてご紹介しましょう。

世界を制した先進のヤマハ技術 「YPVS、ヤマハ・パワーバルブ・システム」のはなし

2シーズンにわたって立証された 『YPVS』の威力!

今シーズンの世界選手権ロードレースGP 500ccクラスで「キング、ケニー」を2年連続の世界チャンピオンへと導いた、ワークスマシン『YZR500』。そして、全日本選手権モトクロスシリーズでは、若きチャンピオン光安鉄美の手で125、250のダブルタイトルを獲得したワークスマシクロッサー『YZM125』と『YZM250』——この輝かしい記録に話題が集まるにつれて、注目度とその評価を高めているのが、2サイクル・エンジンの画期的なバルブ機構・この「YPVS」です。

一昨年の全日本選手権モトクロスシリーズで一部の『YZM』に採用され、ベールにつつまれた研究開発が続けられ、昨年'78シーズンの開幕に先がけて『YZR500』、『YZM125』、『YZM250』への採用が発表されたことはご記憶に新しいところでしょう。

そして、世界GP500ccクラスと全日本選手権モトクロスでの2年連続の快記録によって、この新技術の成果が立証され、いまさらながらに大きな関心を集めているのです。

低中速の高トルク、 高速でのハイ・パワーを実現!

昨シーズンの世界GP500ccクラスで、タイトル死守をめざすバリー・シーンに『ケニー』のマシンにはついていけない、あのエキゾー

ストバルブの威力だ」といわしめた『YPVS』。それは、まさに2サイクル・エンジンの画期的な新技術なのです。

一般的に、2サイクルエンジンでは排気タイミングが早いほど高速・高出力型性能となり、逆に排気のタイミングを遅くすると低速高トルク型性能となるわけです。

しかし、スピードが勝負となるロードレースやモトクロスとはいえ、高速万能でないことご承知のとおり。十分な高速性能を持ちながら低中速でもいかに高トルクを発揮させるか——このかねあひ、相反する両方の特性を満足させることがつねに技術陣に課せられた課題ともなっていたのです。

エンジン回転に合わせて、 排気タイミングが変る!

そして、この課題に対するヤマハのひとつの回答が、バルブによって排気タイミングをコントロールするこの「YPVS」。

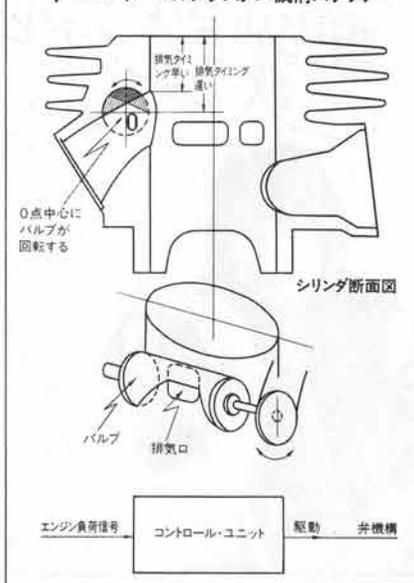
その基本原理は、シリンダーの排気孔外部にバルブを設け、エンジン負荷に自動的に連動させて排気タイミングを変え、それぞれの回転域に合わせた最も効率のよい排気タイミングを確保しようというものです。

これにより、低中速では十分なトルクを、また高速では最高のパワーを……と回転全域にわたる大幅な出力向上を可能にしています。

もちろん、この排気バルブの駆動にも独自の技術がもり込まれていることはいうまでもありません。

かつては、吸気(掃気)、排気すべてのコントロールをピストンが受け持っていた2サイクルエンジンも、ロータリーバルブからトルクインダクション(7ポート+ピストンリードバルブ)に至る吸(掃気)サイドの技術革新によって、めざましい

ヤマハパワーバルブシステム機構スケッチ



性能向上をとげたものですが、この「YPVS」はこうした2サイクル・エンジンにさらに排気タイミングの可変コントロールという新機能をもたらし、また新しい2サイクル・エンジンの可能性を拓くものとして、各方面から大きな期待が寄せられているのです。

『高品質・高性能』 ヤマハに直結する最新技術

さらに、この「YPVS」は、単に出力向上に寄与するばかりでなく、吹き抜けや吹き返し燃料が低減するところから燃費の向上にもつながる。

また、熱効率の向上によっても、燃費が向上する——といった、すぐれた特徴をも兼ね備えています。

それだけに、年を追って続けられているこの「YPVS」の研究開発のノウハウは、単にレーシングマシンの分野にとどまることなく、やがてはヤマハ市販車の性能・品質の向上に直結するものです。どうぞ、この最新のヤマハ技術を、日頃のみなさまのご商売にも、大いにお役立ていただきたいものです。



『YPVS』の威力を立証、「キング、ケニー」を2年連続の世界一へと導いたワークスマシン『YZR500』

ヤマハオリジナル
ウィンターウェアご紹介



冬もバイクで活動的に

「冬はバイクに乗らない」などといえぬほど
バイクは今や人びとの暮しに密着したものとなっています。
この冬も、お客さまに安全で、暖かく快適なバイクライフを
おすごしいたぐのために
豊富なヤマハ・ウィンターウェアをおすすめください。



キルティング
ジャンパーCY80

- 標準小売価格 ¥7,200
- カラー：紺、赤 ●サイズ：M、L、LL ●素材：表地ナイロン100%（ヘビータフタ）、中綿ポリエステル100%、裏地ナイロン100%
- ポリウムがあり強い材質。美しい光沢の表地。裏地は樹脂加工で綿もはつれません。夜間の視認性を考慮した反射テープ（右袖上部）付

ウィンターサロペット

- 標準小売価格 ¥9,000
- カラー：赤/黒 ●サイズ：M、L、LL ●素材：表地ナイロン100%（ヘビータフタ）、中綿ポリエステル100%、裏地ナイロン100%（素材はウィンタージャケット共通）●スリムでスマートなサロペット。ウィンタージャケットとペアでおすすめください。



ウィンタージャケット

- 標準小売価格 ¥9,600
- カラー：赤/黒 ●サイズ：M、L、LL ●運転操作を妨げないよう脇裏にストレッチキルト、脇裏にパワーネットを用いて伸縮性も十分。ウィンターサロペットと合わせれば全身の防寒性も万全です。



インテューログローブ

- 標準小売価格 ¥5,500
- カラー：茶 ●サイズ：M、L ●最高級牛皮を使用した、柔軟で使いやすいツーリング・グローブ。

NEW
ヤングCYコート

- 標準小売価格 ¥7,900
- カラー：白 ●サイズ：M、L、LL ●素材：表地ナイロン100%（ヘビータフタ）裏地ナイロン100% ●ファッション的なヤング向けのキルティングジャンパー。スリムなデザインの防寒ウェアです。



モトクロスグローブ

- 標準小売価格 ¥4,500
- カラー：黒（パッド白）、白（パッド黒）、赤（パッド白） ●サイズ：M、L ●高級牛皮製。立体裁断で機能的なオールシーズン用、モトクロスタイプです。

ウィンタービジネスルックB

- 標準小売価格 ¥9,800
- カラー：紺 ●サイズ：M、L ●素材：表地ナイロンオックス100%、中綿ポリエステル100%、裏地ナイロン100%



ウィンタービジネスルックA

- 標準小売価格 ¥11,700
- カラー：紺 ●サイズ：S、M、L、LL ●素材：表地ナイロンオックス100%、中綿ポリエステル100%、裏地ナイロン100%



防寒防水コート
（上下セット）

- 標準小売価格 ¥13,000
- カラー：紺 ●サイズ：M、L ●素材：表地ナイロン100%（ヘビータフタ）、中綿ポリエステル100%、裏地ナイロン100% ●ハイバロン加工による万全の防水加工に加えて、縫製部分にも目張りテープを用いた完全防水コート。従来のゴム引き素材に比べ軽く、身動きが楽なのも特徴です。



ウィンター
ライダールック

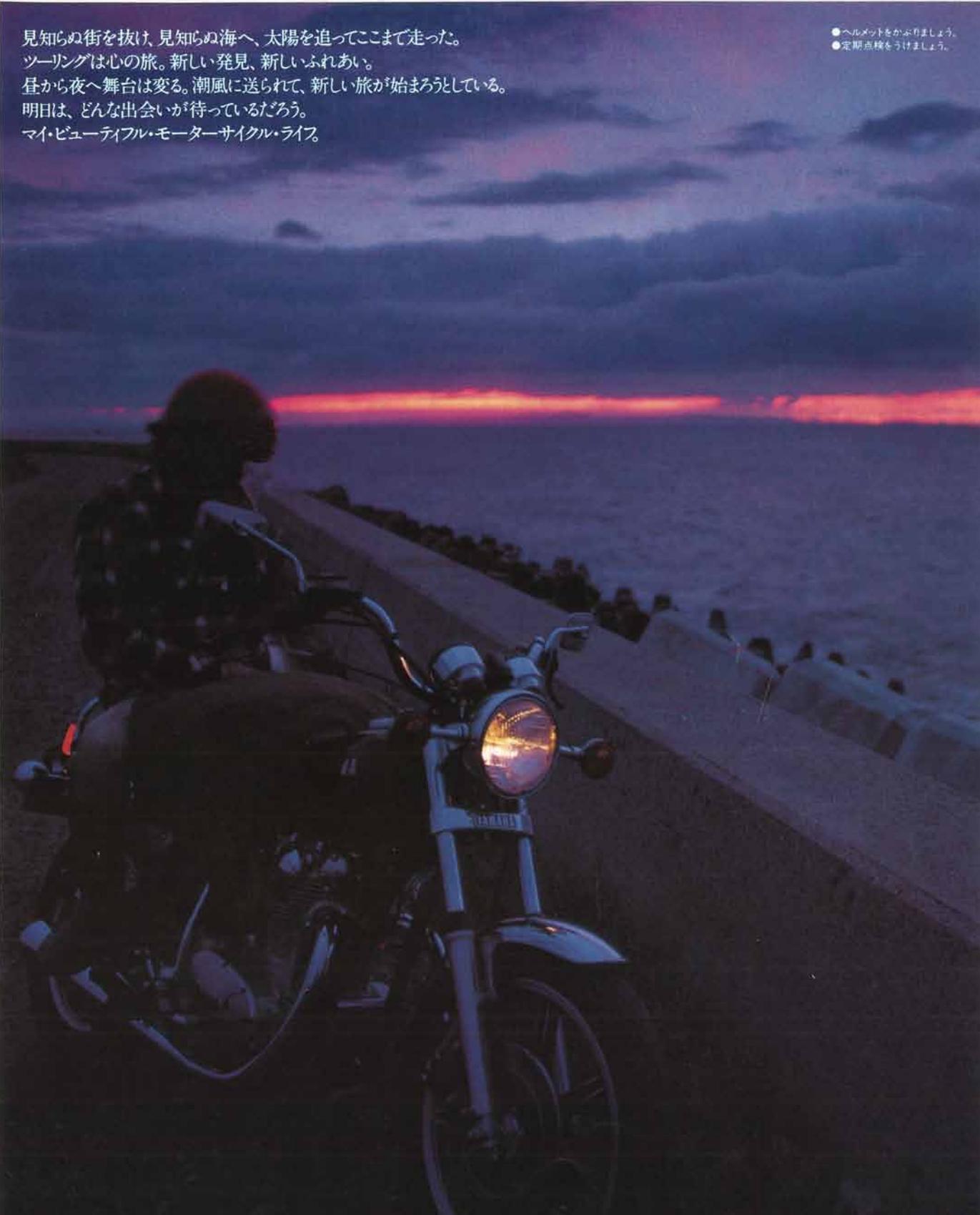
- 標準小売価格 ¥14,800
- カラー：黒 ●サイズ：M、L、LL ●素材：表地ナイロン100%（ヘビータフタ）中綿ポリエステル100%、裏地ナイロン100%、●光たく加工の表地、綿のはつれない樹脂綿キルティングの裏地。フードは取外し可能。



※ウィンタービジネスルックは、A、B両タイプとも表地をコーティング加工。防水性、耐擦性にすぐれ、裏地も樹脂加工で綿がはつれずハードな作業にも最適です。Aはスタンドカラー、Bはシャツカラー、ベルト付。

見知らぬ街を抜け、見知らぬ海へ、太陽を追ってここまで走った。
ツーリングは心の旅。新しい発見、新しいふれあい。
昼から夜へ舞台は変わる。潮風に送られて、新しい旅が始まろうとしている。
明日は、どんな出会いが待っているだろう。
マイ・ビューティフル・モーターサイクル・ライフ。

- ヘルメットをかぶりましょう。
- 定期点検をうけましょう。



My Beautiful Motorcycle Life YAMAHA

広告活動ご紹介

マイ・ビューティフル・モーターサイクルライフ——バイクを持つことによって広がる個性的なスポーツライフ。この提唱は第23回東京モーターショーでヤマハのメインテーマともなったもの。つめかけたお客さまの共感を集めて好評を呼んだものです。'80年代へ向けてヤマハはこのテーマをさらに強力に訴求してまいります。お店でもどうぞよろしく。